



2021年8月31日 発行

神戸大学男女共同参画推進室 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 Tel: 078-803-5471 /5017 Fax: 078-803-5285

男女共同参画推進に係る研修会を実施しました

7月15日に男女共同参画推進室が作成したeラーニング教材（ダイバーシティ教育プログラム ジェンダートレーニング～男女共同参画編～）を、学長をはじめ理事・部局長等のみなさまに視聴していただく研修会を開催しました。

この教育プログラムでは、女性管理職や研究者の比率が低いといったジェンダーアンバランスの実情を説明し、育児・介護との両立を男女問わず行うという意識改革を目指すとともに、メンターの重要性を指摘し、管理職の資質として必要なものを再認識していただける内容となっております。

このプログラムに関して視聴を希望する方は、男女共同参画推進室までお問い合わせください。



7月15日に実施された研修会の様子

男女共同参画推進に係る研修を通してー奥村 弘理事よりー

今回の研修に使用された男女共同参画室作成のビデオでは、掛け合いで進められていく事例が極めてリアルでした。親の介護についての事例では、日常生活で介護を妻に任せがちな男性教員の夫に対して、「あなたのお母さんでしょう」と妻が述べ、夫が何も言えなくなってしまうというくだりがあります。我が家を顧みて、最初に見たときに、「たしかにそうだな」と唸ってしまいました。一見この事例は、女性が介護に関わることを当然とする意識、男性から見ると自分自身では意識しづらい「無意識のバイアス」を表しているようにも見えます。しかし、男性教員は、本当はそれ以前から課題に気がついていたのではないのでしょうか。知らないふりをしていることも、妻の怒りの原因のように思います。この事例は夫婦の間に緊張が走ったところで終わっているのですが、私はこのあとの二人の展開が気になりました。新たに踏み出すことができましたのでしょうか。それとも事態はかわらなかったのでしょうか。夫婦だけでなく、職場においても、「気がついている」ということについて、勇気をもって共有して課題に取りかかること、それが第一歩になるのではと感じさせられました。

女性の積極的採用に向けての公募記載について

7月15日開催の第223回の教育研究評議会において女性教員の積極的な採用を進めるため、下記文言を教員採用人事の募集要項に記載することが承認されました。

2020年度末時点で女性教員比率は2割を下回っています。大学として女性教員の採用を更に積極的に進めていきます！！「神戸大学は男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、女性研究者の積極的な応募を歓迎し、業績および資格等に係る評価が同等である場合には、女性を優先的に採用します。」

「In accordance with the spirit of the Basic Act for Gender Equal Society, Kobe University welcomes applications from women researchers. Women will be given priority in cases where their publications, certifications and/or other qualifications are found to be equivalent to those of male candidates.」

男女共同参画推進室協力教員のご紹介

松尾 美和 経済経営研究所 准教授

現在私は、主としてアメリカを対象として交通行動と就業機会・子の教育機会、そしてジェンダーの関係について研究している。たいてはフェミニズムに傾倒していたわけでもない私がジェンダーに関する研究を始めたのはほんの偶然で、元々はアメリカの過疎地における移民の交通行動研究を行っていた。その際に、彼らの自動車利用が男女で大きく異なることを発見して、そちらの方を主題として論文を書いたのが始まりである。

研究を開始した当初は、ジェンダー関連の研究は交通の分野ではマイナーな存在であった。しかし、交通におけるジェンダー問題は2017年以降の#Me Too運動によって注目を浴びることとなり、風向きが変わったように思う。多数の研究が発表され、既存の理論モデルの設定が伝統的な男性像に沿った仮定に基づいていることや、交通行動の違いの背後に構造的要因があること、また、交通行動や移動能力の差異が更なる経済格差拡大につながるものが広く認識されるようになったのである。

折からのコロナ禍で、シングルマザーを筆頭にケア労働負担者が就労との両立に苦しんでいることが報じられている。女性に限らず、ケア労働を負担する者の交通問題は研究が十分に行われているとは言い難い。公共交通や自動車が社会的弱者のために果たすべき役割は何か。今後も研究を続けていきたい。



カリフォルニア州ロサンゼルス市のメトロリンク(通勤列車)、2019年9月撮影

松花 沙織 理学研究科 助教



テーマ：仕事と子育ての両立一年目を振り返って

今年度より男女共同参画推進室の協力教員となりました、理学研究科生物学専攻の松花です。専門は生物学の中でも分子発生生物学です。ニワトリやゼブラフィッシュをモデル動物として、心臓発生に関わる遺伝子制御機構を解析しています。2年前の8月に第一子を出産し、半年間の育児休業を取得し、昨年4月に復職しました。仕事と子育てを両立し始めて、1年と少しが経過しました。初めての子育ては手探り状態で大変ですが、限られた時間で実験をこなし、子供が体調を崩せば看病するために仕事スケジュールを組み直し、子供からうつされた風邪で今度は自分が寝込む、このような日々を奮闘中です。自分の実験や仕事をこなしきれず、苦しい思いをすることもしょっちゅうです。これは子供をもつ研究者だけでなく、きっと世の中の子供を育てながら仕事をされている多くの方が感じる苦悩でしょう。このような私のやるせない気持ちを救ってくれているのは研究室メンバーの存在です。子育てに理解ある教授の先生方をはじめ、研究室の方々の手厚いサポートに助けられています。以前、技術補佐員の方に迷惑ばかりかけてすみませんと謝ったら、「大変な時は迷惑かけてくれていいのです。その代わりに、可愛いお子さんの写真をたくさん見せて下さい！」と声をかけてくださり、その優しさが身にしみました。このような温かい言葉が私を前向きにさせてくれると同時に、私が受けているこの恩恵を、今後は私が他の人に繋げていきたいと思っています。

工学部建築学科 2 年 田中琴絵

今回、私たちのチームは、プラスチックを取り巻く問題に焦点を当て、「Replalize」としてプラスチックごみの DIY に着目した、資源循環と環境教育を目的とするワークショップを提案しました。残念ながら賞をいただくことはできませんでしたが、審査員の方にも、「誰もが身近に考えられるように」というコンセプトや、プロジェクトの応用可能性については評価いただくことが出来ました。同時に、活動内容の具体化や、プロジェクトを持続させるためのプラン等、実現性の面や、活動をめぐるリレーションシップといった面で、ブラッシュアップが必要というアドバイスをいただきました。他のチームでは、大学、企業と連携し、成果を実際に出しているような非常に完成度の高いプロジェクトも見られ、このようなアプローチの仕方もあったのかと、発表を聞いている間、驚きと発見が止まりませんでした。

今回、日経ウーマノミクスへの参加を通して、課題設定から発表に至るまでの一連のプロセスや、SDGs について学ぶ機会を得たことはとてもいい経験になりました。そして何よりも、現在、学生間での関わりが制限される中で、チーム 3 人で毎晩話し合い、一緒にこの課題にチャレンジ出来たことはとてもいい思い出になりました。

また、イベント中では高校生と交流する機会もあり、コロナ禍においても、少しでも大学の様子について知ってもらう機会が持ててよかったと思います。



工学部応用化学科 2 年 橋本美優

今回、私たちは生活に欠かすことのできないプラスチックを SDGs の観点からどのようなメリット、デメリットがあるのかについて考え、一人一人の行動がすでに生産され地球上に存在しているプラスチックにどのような影響を与えることができるのか、環境問題に焦点を当てながら考えました。私たちは主に同世代を対象としたアンケート結果を通して、レジ袋有料化の取り組みは環境問題解決に直結するという認識を多くの人が持っていることが分かりました。しかし実際はレジ袋を削減することによって環境問題が大きく変化することは難しく、レジ袋有料化はあくまでプラスチック問題を認知し、考えてもらうきっかけにすぎません。私たちの発表を通してレジ袋有料化と同じように少しでも行動変容のきっかけになればと思いこのテーマを選択しました。

高校生との交流を通して、大学への憧れをもつ高校生が多いことを改めて認識しました。大学になったらどんな勉強ができるのだろう、どんな楽しい生活が待っているのだろうという期待に目を輝かせている高校生とお話する機会を得て、彼らに恥じることはないように目標をより明確にして勉強し、充実した生活を送りたいと感じました。

工学部市民工学科 2 年 成川美杉

7 月 13 日に行われた日経ウーマノミクス SDGs 座談会発表コンテストに参加しました。発表のテーマは、SDGs の目標を理解して、課題をチームで発見、探究し解決に向けたアクションプランを考えるというものでした。

工学部 2 年の学科の違う 3 人でチームを組み、約 3 か月間 SDGs と私たちの生活の結びつきについて研究、話し合いを重ねました。私たちはプラスチックごみ問題を取り上げ、解決策として、ごみ問題への意識を高めてもらう取り組みである Replalize というワークショップイベントを考案しました。

発表当日は、他のチームの発表を聞いて SDGs の様々な側面を学ぶことができました。また、自分たちの発表の際には専門家である審査員の方からの感想や質問を頂き、気付かなかった新たな課題が見つかりました。

今回、工学の分野の「材料」や「ものづくり」という観点から、世界的な問題解決に繋げる企画を考えるという体験をして、今後の大学での学びへ一層意欲が湧きました。

また、今回のイベントには高校生向けの神戸大学の説明ブースがあり、興味のある分野などについて高校生から話を聞き、質問に答えました。中には工学部に興味があるという高校生もいて、高校の勉強だけにとらわれず関心のある事柄について目標を持って学んでいるという話が印象的で、私にとっても貴重な機会になりました。



アレキサンダー学長補佐（ダイバーシティ担当）コーナー

インクルーシブキャンパスに向けて インクルーションと名前



「はじめまして。〇〇です。」今までの人生の中で、このセリフは何回言ったのでしょうか？
その時、戸惑ったことはありますか？私は来日40数年になりますが、未だに「名前」のことで頻りに戸惑ったりします。姓名？それとも名姓？表記はカタカナ？ローマ字？40年も使っているカタカナ表記を「間違っている」と指摘されることも、間違ったローマ字表記を使われることもあります。見ただけでジェンダーが判断しにくい名前ですが、ジェンダーを決めつける人が少なくありません。外国人、旧姓で呼ばれたい人、トランスジェンダーや自らの性について悩んでいる人だけではなく、あなたも「呼ばれたい名前」があるかもしれません。それが自由に使えるのは、インクルーシブキャンパスです。

ユネスコチェア継続申請について

男女共同参画推進室は、ユネスコの認証を受けて「神戸大学ユネスコチェア ジェンダーや脆弱性に配慮した減災対策」（2018-2021）という教育・研究プロジェクトを、インドネシア、台湾、タイ、マレーシアの協力機関と一緒にやっている。この度継続申請をした。継続が認められれば、キーワードにウェルビーイングを加え、大学全体でとりくむ教育・研究プロジェクトとしていく計画である。

“W36 Global Summit for Gender-related UNESCO Chairs and Networks”

インドのアムリタ大学開催の「ジェンダー関連ユネスコチェアやネットワーク世界大会」が8月19日・20日にオンラインで開催されました。神戸大学ユネスコチェアの代表として、アレキサンダーが活動紹介や研究報告を行い、交流を深めました。ジェンダーはユネスコの優先課題の一つで、世界に現在37ものジェンダー関連ユネスコチェアがあります。<https://en.unesco.org/gender-related-chairs-and-networks>

お・知・ら・せ

室長と語るオンライン懇談会の実施

今年度から新たに始める取組「室長と語るオンライン懇談会！！」、第1回はワークライフバランス編として9月29日（水）12：30～13：30に実施します。今回のテーマは「介護と研究の両立ってどうしてる？」「おとうさんと育児、ここが大変」等、日頃の育児や介護をめぐって抱えている問題をざっくばらんに参加者同士で話し情報共有できる時間をもつとともに、室として取り組むべき課題についてご意見をいただく機会にしたいと思います。参加ご希望の方は opge-info@office.kobe-u.ac.jp までお申し込みください（締切9/17正午）。

実施報告

● お礼！新型コロナウイルスが就労環境へ与えた影響に関する調査

2021年3月18日から4月16日の間に実施しまして「新型コロナウイルスが就労環境へ与えた影響に関する調査」に767名の方から回答をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。選択肢に対する回答だけでなく、自由記述でさまざまな意見・要望をいただきました。近日中に結果を公開しますのでもう少しだけお待ちください。

● 小学生のためのサマースクール

8月3日（火）～23日（月）の期間で、「小学生のためのサマースクール2021」をWEB開催しました。教員と学生の個人・グループ合わせて7件の動画を作成頂き、公開しました。様々なテーマの動画が集まり、延べ、250回以上のご視聴を頂きました。ご参加頂いた皆さまはじめ、動画を作成頂いた先生方、学生の皆さまありがとうございました。

男女共同参画推進室にご意見・ご要望がありましたら、ホームページのお問い合わせからご意見箱を使って送りください。みなさまからのご意見・ご要望お待ちしております。

男女共同参画推進室HP <http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/>

